

秀品収穫は
苗美人
から。



すばやく根から吸収される苗灌注1回で、速効食害停止&約1ヶ月残効!
悪い虫をつけさせない。



水やり(灌水)と同様方法の
灌注処理!

主な適用害虫



* 株元灌注の場合は作物体になるべく薬液がかからないよう処理してください。

薬害 事例 ゼロ!	トマト	ミニトマト	きゅうり	なす
	ピーマン	メロン	すいか	キャベツ
	ブロッコリー	レタス	ねぎ	ほうれんそう
			いちご	

野菜灌注用殺虫剤

ベジマーク® SC

powered by
CYAZYPYR®
ACTIVE INGREDIENT

ジアミド剤のプロ FMCの卓効成分
シアントラニプロール (通称:サイアジビル®) を、18.7%高配合!



大事な育苗期にこの1剤で、 幅広い重要害虫を速やかに防除。 長い残効で、作物をしっかりと守ります。

はじめに

ベリマーク®SCの有効成分シアントラニリプロール(通称:サイアジビル® 23ページ)は、世界で2番目のアントラニリックジアミド系殺虫成分です。

日本においてベリマーク®SCは葉菜・果菜等の野菜向けの灌注専用殺虫剤として開発され、2014年10月に農薬登録されました。

サイアジビル®は、幅広い殺虫スペクトラム、速やかな食害停止効果、優れた残効性により、害虫の密度を長期間抑え、作物を保護する特長を有しています。

ベリマーク®SCはジアミド系特有のチョウ目害虫、ハエ目害虫に対する優れた効果に加え、コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類等にも卓越した効果を示します。

一方で、有用昆虫(天敵・訪花昆虫)への影響は少なく、IPM(総合的病害虫・雑草管理)に適合しています。

また、害虫への効果発現が早いことから、害虫によるウイルスの媒介抑制効果も確認されており、新たな害虫防除体系の確立に貢献できる製品として期待されています。

トピックス

1. 灌注専用剤ならではの有効性と省力性

速やかな吸収移行性、根からの吸い上げによる長い残効性。

ポットやセルトレイをたくさんまとめて簡単に処理。

慣行の粒剤処理に比べ、作業時間が短縮できて省力的!

2. 作物別に効果的な使い方をご紹介します!

黄化葉巻病などのウイルス病対策、IPMIにも有効。

トマト、きゅうりなど果菜、ねぎ、キャベツなどの葉菜類に、

どのタイミングで、どのように使うとより効果的かを解説します。

3. 幅広い害虫スペクトラム

適用作物に対して、吸汁性、食害性、チョウ目害虫の各害虫種への効果をご確認ください。

目次

はじめに..... 2

トピックス..... 2

5つの優れた特長..... 3

作物別情報 果菜類..... 4~5

ねぎ..... 6~7

葉菜類..... 8

基本特性 作用特性..... 9

吸収移行性..... 9

殺虫スペクトラム..... 10

有用昆虫への影響..... 11

発育齡別活性..... 12

温度別殺虫活性..... 13

速やかな効果発現..... 13

ウイルス媒介抑制効果..... 14

害虫の効果

吸汁性害虫への効果..... 15~17

チョウ目害虫への効果..... 18~20

食害性害虫への効果..... 21

登録内容・基本情報

適用害虫と使用方法..... 22

注意事項..... 23

混用事例..... 23

成分・性状..... 23

安全性..... 23

5つの優れた特長



1 幅広い殺虫スペクトラム

コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類や、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、コナガ等のチョウ目害虫等の幅広い害虫種、害虫の各ステージに高い効果を発揮します。

▶ 詳しくは10ページへ



2 速やかに食害をストップ ウイルス媒介の抑制効果も

害虫の摂食・吸汁行動を速やかに停止させます。害虫によるトマト黄化葉巻病、きゅうり黄化えそ病のウイルス媒介を抑制する効果も認められています。

▶ 詳しくは13~14ページへ

3 速やかな吸収移行性による 長い残効性

本剤を灌注処理すると薬剤は速やかに根から吸収されて作物の導管を通して地上部に移行します。この作用により定植後3~4週間の残効を示します。

▶ 詳しくは9ページへ

4 有用昆虫、周辺環境等に対する 高い安全性

天敵、訪花昆虫への安全性が高く、IPMプログラムに組み込むことが可能です。また、灌注処理なので周辺作物へのドリフトや使用者への薬剤被ばくも少なくすることができます。

▶ 詳しくは11ページへ

5 初期生育の作物に対する 高い安全性

育苗期の灌注処理に適した製剤となっているため苗に対して高い安全性が確認されています。上市以来、薬害の事例はありません。

▶ 詳しくは4~8ページへ

灌注処理による省力的で安定した初期防除で、充実の収穫を。

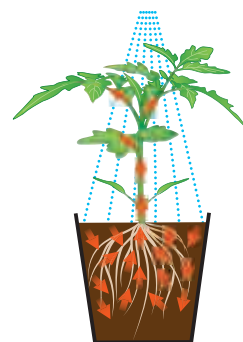
コナジラミ類への高い効果

速やかに害虫の食害を止める

幅広い殺虫スペクトラム

上手な使い方

- 作物体に移行した生育期初期に発生するアブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類の加害・他株への移動を速やかに停止させます。
- 軟弱な定植前の幼苗に対して安全性も高く、処理後の生育に対する影響も確認されていません。



処理タイミング

育苗期後半処理

- 育苗中の苗を健全に育てたい ●育苗中の管理作業を低減したい ●作付面積を増やしたい

こんな方には

- 鉢上げ時に処理されたベリマーク®SCは、素早く作物に吸収され定植後3~4週の間、害虫の加害を防ぎます。
- 軟弱な幼苗を加害する害虫を防除し、健全な定植苗を確保できます。
- 育苗中の苗に対しても薬害の事例はありません。



定植前処理

- 定植前にベリマーク®SCを灌注処理することで、定植後3~4週の間、防除効果を発揮します。
- 定植直後の薬剤散布が省け、他圃場の定植等の作業を優先できます。
- ミツバチ、マルハナバチ・天敵類に影響が無いため、処理後速やかに受粉昆虫、天敵を導入できます。

こんな方には

- 定植後の害虫被害を長期に抑えたい ●多忙な定植作業中の害虫防除を減らしたい

注意:ベリマーク®SCの総使用回数は1回です。

処理方法

ベリマーク®SCを作物に処理するには、所定の希釈倍数に調製した薬液を作物苗(育苗ポット、セルトレイ他)に灌注処理してください。処理されたベリマーク®SCは速やかに作物体に吸収されます。

動力噴霧器での処理



自家育苗の場合

ジョウロでの処理



購入苗の場合(定植直前処理)

● 処理量(トマトの場合)

薬量: 400株あたり25ml 希釈水量: 400株あたり10~20ℓ(1株あたり25~50ml)



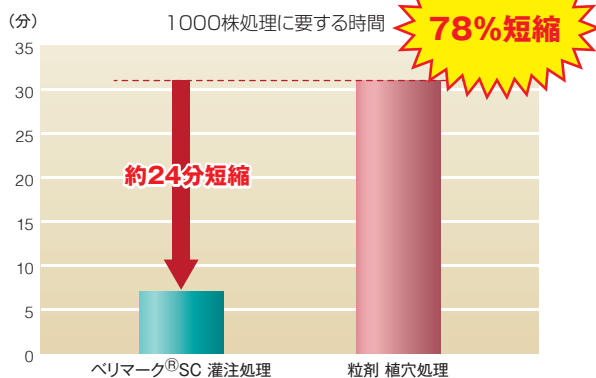
※ベリマーク®SC(100ml)1本でトマト1600株処理できます。

※株数によって異なります。

作業時間の短縮

定植時の多数の苗に対して薬剤処理を行う場合、ベリマーク®SCの灌注処理は慣行の粒剤植穴処理と比較して作業時間を大幅に短縮できます。また、屈みこむことなく、立って作業を行えるため、作業による疲労度も少ないと評価されています。

● 処理時間短縮



2016年デュポン株式会社 社内試験

【試験概要】場所: 宮城県白石市 処理日: 8月22日 作物名: きゅうり

【試験方法】灌注処理: はすろジョウロ(容量10ℓ)を用い、キュウリ苗300株を処理(400倍、25ml/株)した。その後、定植作業を行った。

粒剤処理: 粒剤(2g/株)を定植作業と同時に植穴処理した。

【評価方法】それぞれの処理の様子を動画で撮影し、下記の作業時間を計測した。灌注処理: 300株処理に要した時間

粒剤: 5株処理に要した時間(作業の最初と最後は避け、平均的な中間5株処理に要した時間を計測)

計測値をそれぞれ1,000株処理に換算し、評価を行った。

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

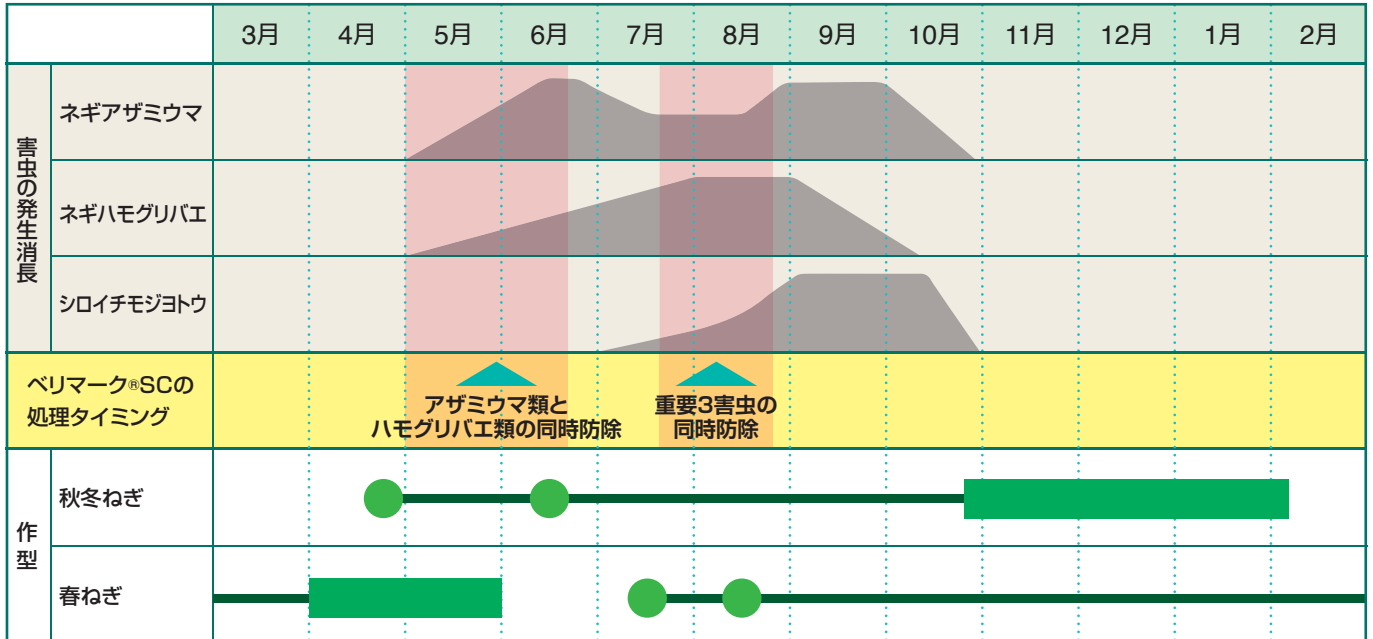
登録内容・基本情報

安定した収穫に繋げる大事な栽培初期を健全に。

幅広い殺虫スペクトラム

速やかに害虫の食害を止める

ベリマーク®SCを使った効果的な防除タイミング



● : 定植 ■ : 収穫

(注意: ベリマーク®SCの総使用回数は1回です。)

処理方法 ベリマーク®SCは育苗期・生育期で灌注処理が可能です。

育苗期

- 動力噴霧器、ジョウロを使用して、多くの苗に直接短時間で処理することができます。
- 一度の薬液調製で数日分の苗を処理できるため、定植のスケジュールが柔軟に調整できます。

●おすすめ処理時期

定植1週間前から

おすすめ時期

灌注処理ができる期間

は種 育苗期前半

育苗期後半

●セルトレイ灌注処理時の薬量と処理水量

セルトレイ枚数	120枚	80枚	40枚	20枚	8枚
ベリマーク®SC	150ml	100ml	50ml	25ml	10ml
処理水量	60ℓ	40ℓ	20ℓ	10ℓ	4ℓ



定植後3~4週間の長い残効

主な対象害虫



アザミウマ類(ネギアザミウマ)



ハモグリバエ類(ネギハモグリバエ)



シロイチモジヨトウ



ネキリムシ類(カブラヤガ)

定植後3~4週間の残効により作物が健全に生育します。



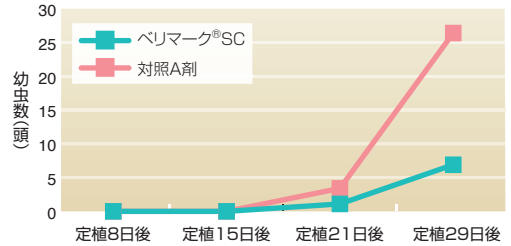
ベリマーク® SC 処理区



対照A剤 処理区

【定植21日後】

■ネギアザミウマに対する効果



【試験概要】 2017年 埼玉県久喜市(社内試験)

処理方法: ベリマーク® SC 400倍0.5ℓ/枚、対照A剤 200倍0.5ℓ/枚

処理日: 5月16日 定植日: 5月17日 調査日: 5月25日、6月1日、7日、15日

調査方法: 展開している新葉2枚を調査部位とし、1区あたり10株を定点観察(3反復)する

調査項目: ネギアザミウマ(幼虫数)

生育期

ベリマーク® SCは生育期の本圃での灌注処理も可能です。

2000倍に希釈した薬液を1㎡あたり500ml均一に処理します。



当日まで

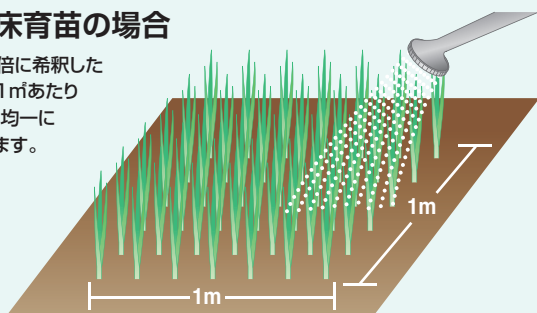


3~4週間の効果

定植開始

●地床育苗の場合

2000倍に希釈した薬液を1㎡あたり500ml均一に処理します。



作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チヨウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

灌注処理で定植後から幅広く害虫を防除し、健全な苗の生育に貢献します。

幅広い
殺虫スペクトラム

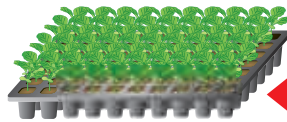
定植後3~4週間の
長い残効

適用作物への安全性が高く、
薬害の事例はありません

上手な使い方

- 定植前のセルトレイ苗にベリマーク®SCを灌注処理することで、定植後3~4週間にわたって防除効果を発揮します。
- 定植5~3日前に灌注処理をしておくことで、多忙な定植前後の農作業にゆとりが持てます。
- 育苗中の苗に対しても薬害の事例はありません。

処理タイミング



定植5~3日前
おすすめ時期



ベリマーク®SCを使った効果的な防除タイミング

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
害虫の発生消長	コナガ												
	アブラムシ類												
	ハスモンヨトウ												
	ハイマダラノメイガ												
	ネギアザミウマ												
ベリマーク®SCの処理タイミング													
				夏秋キャベツ: コナガ、アブラムシ類、ネギアザミウマの同時防除					冬春キャベツ: ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、コナガの同時防除				
作物	夏秋キャベツ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	冬春キャベツ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

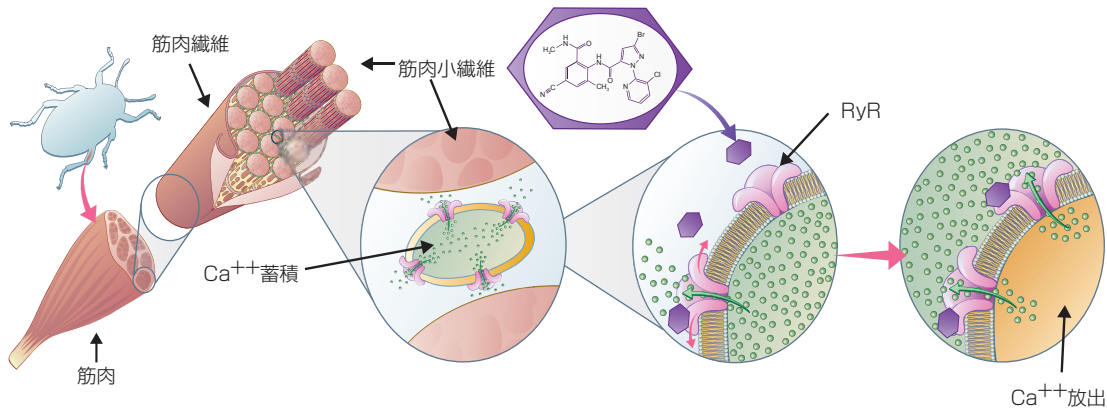
● : 定植 ■ : 収穫

(注意: ベリマーク®SCの総使用回数は1回です。)

作用特性

筋肉細胞の筋小胞体は細胞内のカルシウムイオン濃度を調整することにより筋肉の収縮・弛緩をコントロールしています。サイアジピル[®](23ページ)は筋小胞体のリアノジン受容体(RyR)に結合して筋小胞体のカルシウムイオンを細胞内に放出させます。その結果、昆虫は筋収縮を起こして速やかに活動を停止し、死亡します。また、昆虫のリアノジン受容体に選択的に作用し、ヒトの受容体に反応しないことがヒトへの安全性が非常に高い理由です。

サイアジピル[®]作用機構



サイアジピル[®]は昆虫の筋肉に作用して昆虫の行動に影響を与えます。

有効成分が根部からの速やかで優れた吸収と上位葉、展開葉への速やかな移行性

ベリマーク[®]SCは、灌漑処理を行うことで、土壌中の作物根部から効率よく吸収されるよう調整されています。ベリマーク[®]SCを土壌に灌漑処理すると導管を通して作物上部に移行し、有効濃度が作物内に3~4週間存在します。また、処理時に作物体に付着した成分も茎葉部より作物内部に速やかに移行します。これにより害虫に対して優れた残効性を示します。

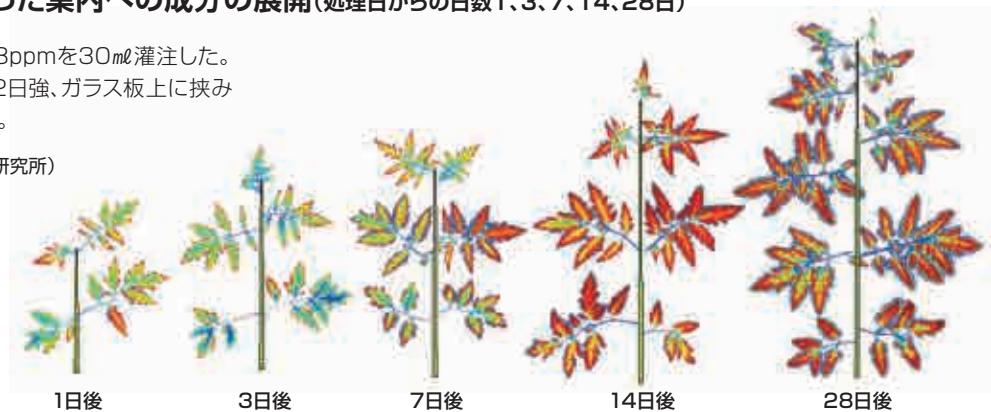
下図は放射性同位体を標識としたサイアジピル[®]をトマトに灌漑処理した場合の薬剤の吸収状況を示しています。

放射性同位元素¹⁴Cを使った葉内への成分の展開(処理日からの日数1、3、7、14、28日)

4葉期のトマトの苗にサイアジピル[®]188ppmを30ml灌漑した。
定植1、3、7、14、28日後に葉を採取し2日強、ガラス板上に挟み
Fuji Phosphor imagerでスキャンした。

(2010年 米国デュボン社 スタインハスケル研究所)

低い 高い



ベリマーク[®]SCは、上位葉に移行し速やかに有効濃度に達します。植物の成長にとまらぬ、根部から吸収されたベリマーク[®]SCは植物体に移行し、新たに成長する部位にも長期間の優れた防除効果を維持します。

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

殺虫スペクトラム

**コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類、また有効成分サイアジピル®
ならでのチョウ目害虫など幅広い害虫に優れた活性を示します。**

サイアジピル®として確認されている殺虫スペクトラムは下記の通りです。

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

目	害虫名	活性	作物群
チョウ目	コナガ	○	野菜
	アオムシ	○	
	ヨトウムシ	○	
	ハスモンヨトウ	○	
	オオタバコガ	○	
	シロイチモジヨトウ	○	
	ツマジロクサヨトウ	○	
	ハイマダラノメイガ	○	
	ワタヘリクロノメイガ	○	
	ネキリムシ類	○	
	カブラヤガ	○	
	タマナヤガ	○	
	ウリノメイガ	○	
	ナカジロシタバ	○	
	ウツバ類	○	
	イラクサギンウワバ	○	
	タマナギンウワバ	○	
	アワノメイガ	○	
	シロオビノメイガ	○	
	キアゲハ	○	
	ナガイモコガ	○	
	ネギコガ	○	
	モモシンクイガ	○	
	モモノゴマダラノメイガ	○	
	スモモヒメシンクイ	○	
	ナシヒメシンクイ	○	
	キンモンホソガ	○	
	ギンモンハモグリガ	○	
リンゴコカクモンハマキ	○		
トビハマキ	○		
ミダレカクモンハマキ	○		
モモハモグリガ	○		
ミカンハモグリガ	○		
オオタバコガ	○		
ケムシ類	○		
アメリカシロヒトリ	○		
クワゴマダラヒトリ	○		
ヒメモンシロドクガ	○		
マイマイガ	○		
アゲハ類	○		
ナミアゲハ	○		
クロアゲハ	○		
シロオビアゲハ	○		
モンキアゲハ	○		
クビアカスカシバ	○		
コスカシバ	○		
ヨモギエダシャク	○		
ヒメボクトウ	○		

目	害虫名	活性	作物群		
チョウ目	チャノホソガ	○	茶		
	チャハマキ	○			
	チャノコカクモンハマキ	○			
	ヨモギエダシャク	○			
	コブノメイガ	○			
ハエ目	フタオビコヤガ	○	稲		
	ニカメイチュウ	○			
	ウコンノメイガ	○			
ハエ目	マメシンクイガ	○	大豆		
	トマトハモグリバエ	○		野菜	
	マメハモグリバエ	○			
	ナモグリバエ	○			
	ネギハモグリバエ	○			
	タネバエ	○			
	タマネギバエ	○			
	オウトウショウジョウバエ	○			果樹
	ミカンバエ	○			
	イネヒメハモグリバエ	○			稲
コウチュウ目	キスジノミハムシ	○	野菜		
	ダイコンサルハムシ	○			
	アリモドキゾウムシ	○			
	イモゾウムシ	○			
	ドウガネブイブイ	○			
	ヨツモンカメノコハムシ	○			
	ワサビリイロサルゾウムシ	○			
	トビイロヒョウタンゾウムシ	○			
	ケシクスイ類	○		果樹	
	ヒメヒラタケシクスイ	○			
	コアオハナムグリ	○			
	ゴマダラカミキリ	○			
	アオドウガネ	○			
	ドウガネブイブイ	○			
	マメコガネ	○			
ミカンナガタムシ	○				
モモチョッキリゾウムシ	○				
マダラカサハラハムシ	○	茶			
イネミズゾウムシ	○	稲			
イネドロオイムシ	○				

目	害虫名	活性	作物群
カメムシ目	ワタアブラムシ	○	野菜 果樹
	モモアカアブラムシ	○	
	ダイコンアブラムシ	○	
	ニセダイコンアブラムシ	○	
	タイワンヒゲナガアブラムシ	○	
	チューリップヒゲナガアブラムシ	○	
	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	○	
	ダイズアブラムシ	○	
	マメアブラムシ	○	
	イチゴケナガアブラムシ	○	
	ニンジンアブラムシ	○	
	ムギクビレアブラムシ	○	
	ユキヤナギアブラムシ	○	
	キクヒメヒゲナガアブラムシ	○	
	ミカンクビレアブラムシ	○	
	オンシツコナジラミ	○	
	タバココナジラミ	○	
	ヒメフタテンヨコバイ	○	
	チャバネアオカメムシ	×	
	ツヤアオカメムシ	×	
ミカンキジラミ	○		
フタテンヒメヨコバイ	○		
チャノミドリヒメヨコバイ	○	茶	
チャトゲコナジラミ	○		
ツマグロヨコバイ	○	稲	
トビイロウンカ	×		
ヒメトビウンカ	○		
セジロウンカ	×		
バッタ目	カネタタキ	○	果樹
	コバネイナゴ	○	稲
イナゴ類	○		
アザミウマ目	ネギアザミウマ	○	野菜 果樹
	チャノキイロアザミウマ	○	
	ミナミキイロアザミウマ	○	
	ミカンキイロアザミウマ	○	
	ヒラズハナアザミウマ	○	
	モトジロアザミウマ	○	
ワサビクダアザミウマ	○		
ダニ目	ホウレンソウケナガコナダニ	○	野菜
ハチ目	カブラハバチ	○	

[記号の説明]

○：実用的な活性あり

○：活性あり

×：活性なし

有用昆虫への影響

昆虫名	試験方法	常用濃度での影響の目安 (IOBC基準)*	試験実施機関(報告年)
セイヨウオオマルハナバチ	ミニトマト圃場試験: 400倍希釈、25ml/株	◎(0日)	(一社)日本植物防疫協会 茨城研究所 (2012年)
スワルスキーカブリダニ (若虫)	ピーマン試験(リーフディスク法): 400倍希釈、25ml/株	◎(影響なし)	(一社)日本植物防疫協会 茨城研究所 (2011年)
コレマンアブラバチ (成虫)	キャベツ試験(リーフディスク法): 400倍希釈、0.5l/セルトレイ	◎(影響なし)	(一社)日本植物防疫協会 茨城研究所 (2011年)

*:天敵等に対する影響は◎:死亡率0~25%、○:25~50%、△:50~75%、x:75~100%(野外・半野外試験)、
◎:死亡率0~30%、○:30~80%、△:80~99%、x:99~100%(室内試験)
訪花昆虫に対する影響は影響日数。常用濃度に幅がある場合は、濃度が高い方で試験を実施した。



セイヨウオオマルハナバチ



スワルスキーカブリダニ



コレマンアブラバチ

スワルスキーカブリダニ写真提供:アリスタライフサイエンス(株)

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

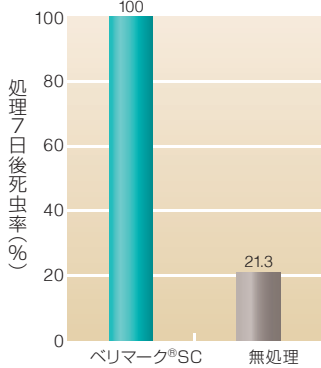
登録内容・基本情報

若齢幼虫から成虫まで 幅広い害虫のステージに効果を示します。

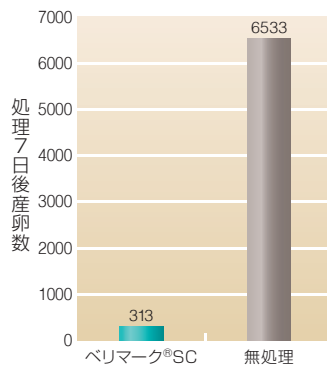
成虫に対する効果(タバココナジラミ)

ベリマーク®SCを灌注処理したトマト苗において、成虫への高い殺虫効果を示しました。
また、産卵数も減少し、次世代の密度抑制効果も確認されました。

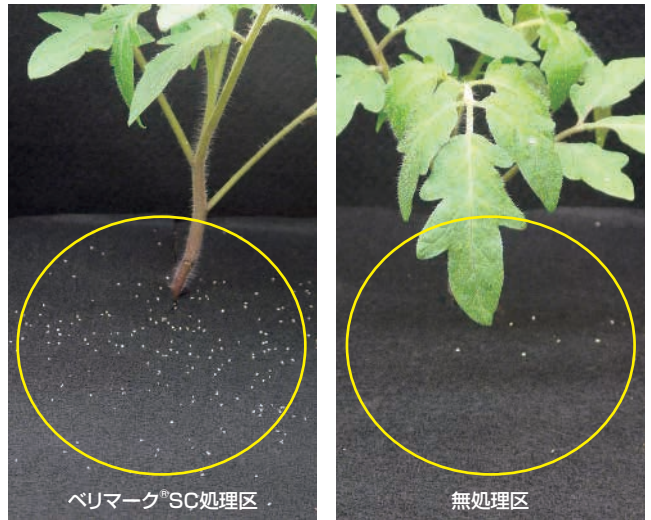
● 殺虫効果



● 産卵抑制効果



● 処理4日後の様子



ベリマーク®SC処理区では、タバココナジラミ成虫の落下や死亡が確認されました。

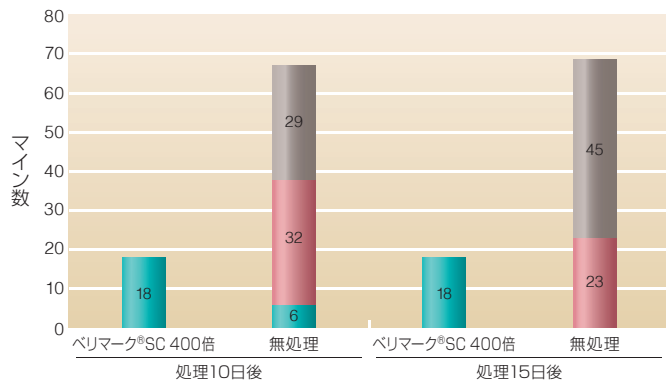
2017年 デュボン・プロダクション・アグリサイエンス(株)

【試験概要】

対象作物：トマト(品種：ハウス桃太郎)
処理方法：4.5号プラスチックポットへ定植時同時処理(処理1時間後100mℓ灌水)
処理量：400倍希釈液を1ポット25mℓ灌注
放虫方法：タバココナジラミ成虫400頭程度をケージ(横2面は網)に処理ポット株元から株上部のみ出る様に、板に切り込みを入れ、設置。設置後、網の切込みから虫を投入。
処理日：12月19日
調査方法：25℃室温、16L8Dで管理。処理1日後、2日後、3日後および4日後に死亡虫を計数。処理7日後に死亡虫および産卵数を計数。

孵化幼虫に対する効果(ナモグリバエ)

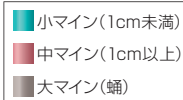
ベリマーク®SCを灌注処理したレタス苗では、孵化直後の幼虫に高い効果を発揮し、葉内に産卵するナモグリバエも効果的に防除することができます。



2014年 大塚アグリテクノ(株) (現 OATアグリオ(株))

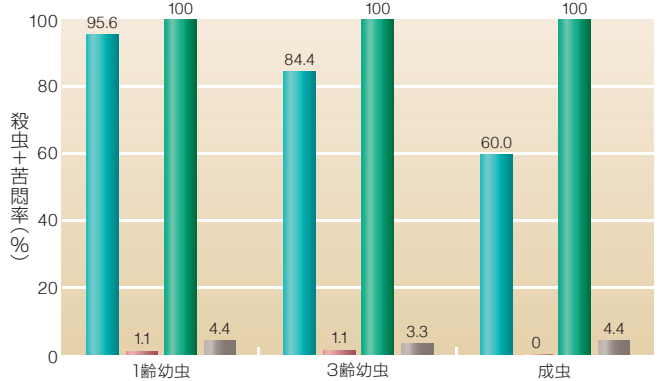
【試験概要】

試験期間：2月28日～3月18日
対象作物：レタス(シスコF)
播種日：1月5日
定植日：3月3日
区制：1区6株1反復
処理方法：株元に2.5mℓ/株灌注した後、プランターに定植し、ガラス温室内にて底面給水にて管理
放虫方法：処理3日前、レタス苗に対しナモグリバエに6時間産卵させた。
調査方法：処理10日後、15日後に全株のマイン数をカウントした。



1齢、3齢、成虫に対する効果(ワタアブラムシ)

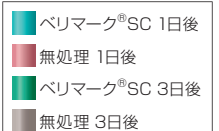
ベリマーク®SCは、1齢幼虫、3齢幼虫並びに成虫のいずれの発育ステージでも十分な効果を示しました。



2013年 日本曹達(株) 小田原研究所

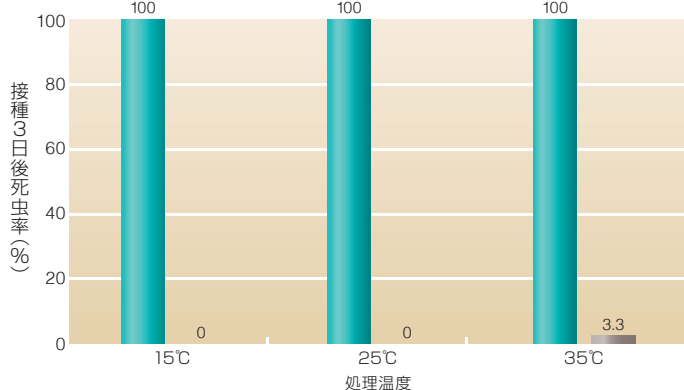
【試験概要】

対象作物：きゅうり(光3号P型)
区制：1区1株3反復
処理方法：9cmポリポット植えのきゅうりに、ベリマーク®SCを所定濃度(400倍)の薬液25mℓで灌注処理した。
放虫方法：処理5日後、ワタアブラムシ1齢、3齢若虫および成虫を株あたり30頭放虫した。
調査方法：恒温室(25℃)で管理し、放虫1、3日後に生存・苦悶虫数を調査した。



温度による影響を受けず安定した活性を示します。

処理温度別の殺虫効果(ハスモンヨトウ)



■ ベリマーク®SC 400倍
■ 無処理

2013年 クミアイ化学工業(株)生物科学研究所

【試験概要】

接 種 日: 10月9日

対象作物: キャベツ(金系201号)

播 種 日: 9月3日

定 植 日: 9月25日

処 理 日: 9月20日

区 制: セルトレイ(処理時)、4号素焼き鉢(定植時)

60mlプラスチックカップ(接種時) 3連制

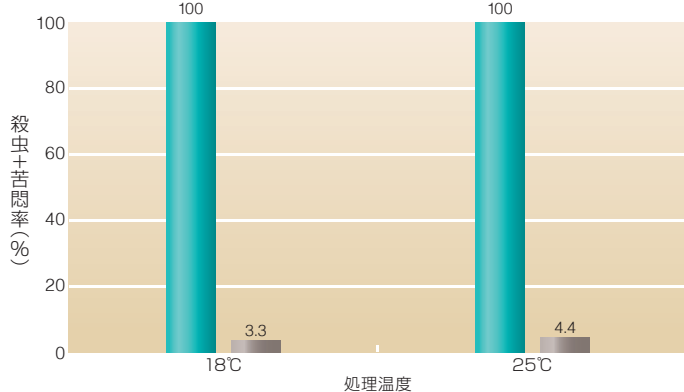
処理方法: 15°C、25°C、35°Cの人工気象室内で、セルトレイ1株当たり3.9ml灌注処理

し、処理5日後に素焼き鉢に苗を移植

放虫方法: 移植後14日目に1株当たり葉を1枚採取し、供試虫10頭を接種

調査方法: 供試虫の接種3日後に死亡率を調査

処理温度別の殺虫効果(ワタアブラムシ・1齢幼虫)



■ ベリマーク®SC 400倍
■ 無処理

2013年 日本曹達(株)小田原研究所

【試験概要】

対象作物: きゅうり(光3号P型)

区 制: 1区1株 3反復

処理方法: 9cmポリポット植えのきゅうりに、ベリマーク®SCを所定濃度(400倍)の

薬液25mlで灌注処理した。

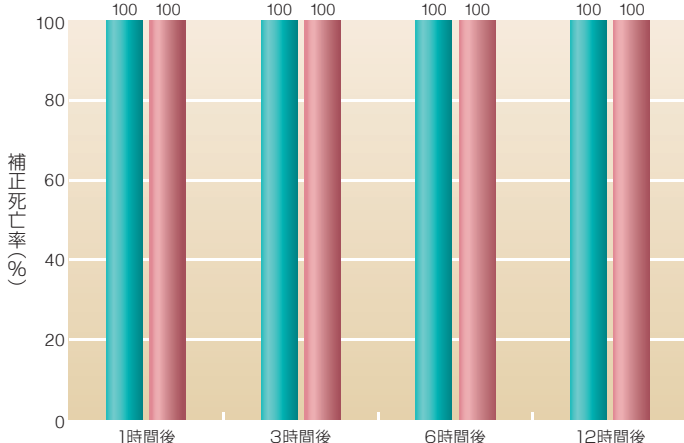
放虫方法: 処理5日後、ワタアブラムシ1齢若虫を株あたり30頭放虫した。

調査方法: 恒温室(25°C)またはインキュベータ内(18°C)で管理し、放虫3日後に生存

苦悶虫数を調査した。

速やかに効果を発現。

孵化幼虫に対する効果(ハスモンヨトウ)



■ ベリマーク®SC 400倍
■ 対照A剤 200倍

2014年 OATアグリオ(株)研究開発部

【試験概要】

試験期間: 5月8日~5月12日

対象作物: キャベツ(四季穫)

播 種 日: 4月9日

定 植 日: 5月8日

区 制: 1区 2株 2反復

処 理 日: 5月8日

処理方法: ベリマーク®SCの400倍、対照A剤は200倍にそれぞれ水道水で希釈し、

キャベツの株元に株当たり2.5ml灌注した後、培土を充填したプランター(25

cm×12cm×15cm)に定植し、ガラス温室内で底面給水にて管理した。

放虫方法: 処理1, 3, 6, 12時間後に第3葉をサンプリングし、孵化直後の1齢幼虫を20

頭ずつ放飼して恒温室(25°C±2°C)に静置した。

調査方法: 放飼4日後に生虫数をカウントして補正死亡率を算出した。

考 察: ベリマーク®SCのハスモンヨトウ孵化幼虫に対する効果発現は処理1時間後から認められ、処理12時間後まで対照A剤と同様に死亡率100%で推移した。

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

ウイルス媒介抑制効果

作物別情報

基本特性

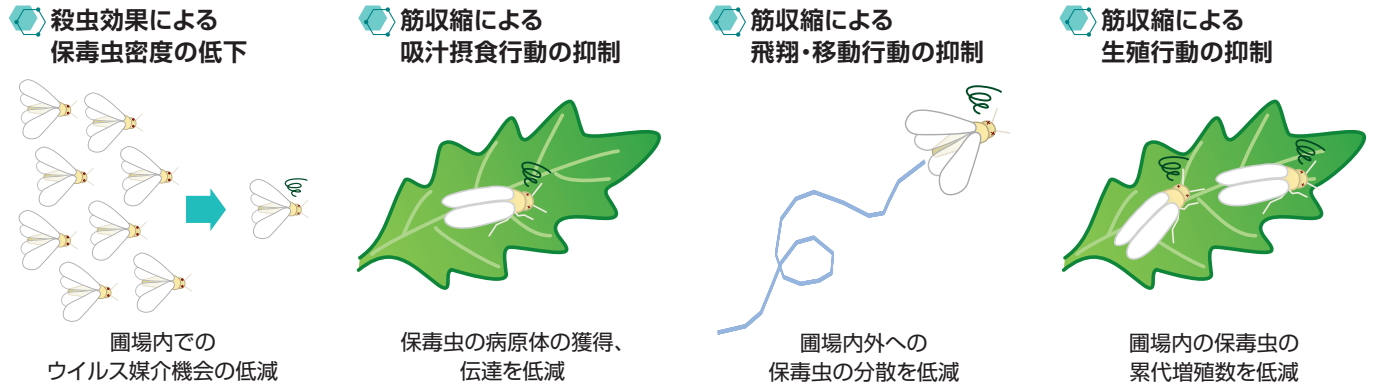
吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

ベリマーク®SCは国内の試験事例において、トマト黄化葉巻ウイルスの媒介抑制効果が認められています。また、海外の事例では、複数の野菜において数種のウイルス病の発病率を低下させた事例があります。ベリマーク®SCの有効成分であるサイアジピル®自体にウイルス病に対する効果はありませんが、ウイルスを媒介するコナジラミなどの保毒虫の行動を阻害するその作用機作によってウイルスの媒介抑制を引き起こしているものと考えられます。サイアジピル®の作用機作がウイルス媒介抑制効果を発現する要因として以下のものが考えられます。



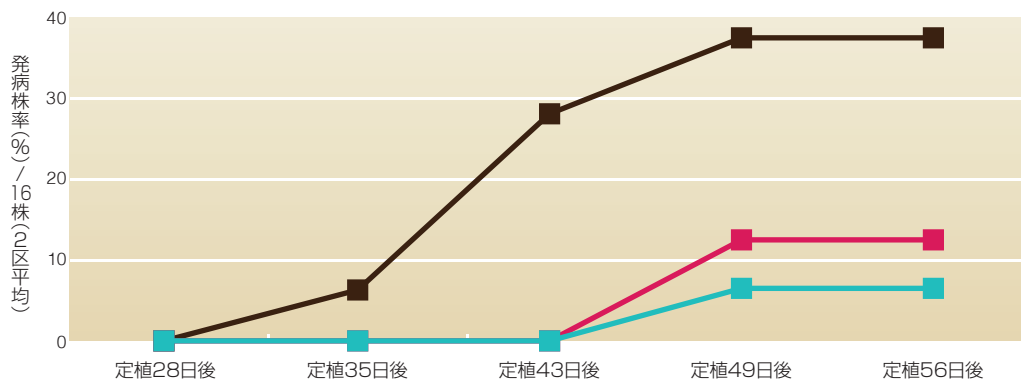
※各種ウイルス病対策にはベリマーク®SCをはじめとする殺虫剤による保毒虫の密度を低下させるとともに、ウイルス抵抗性品種の導入、保毒虫の侵入阻止、健全苗の使用、圃場周辺の整備等の対策が必要です。

ウイルス病と媒介昆虫

病原名	略名	媒介昆虫	作物名
トマト黄化葉巻ウイルス	TYLCV	タバココナジラミ	トマト
トマト黄化えそウイルス	TSWV	ミカンキロアザミウマ	トマト・コショウ
ササゲモザイクウイルス	CABMV	マメアブラムシ	ササゲ・マメ類
キュウリモザイクウイルス	CMV	ワタアブラムシ	ヘチマ・キュウリ
イネツングロ桿菌ウイルス	RTBV	ツマグロヨコバイ属の複数種	イネ
Cucurbit Yellow Stunt Disorder Virus	CYSDV	タバココナジラミ	メロン
イネグラッシースタントウイルス	RGSV	トビイロウンカ	イネ
イネラギットスタントウイルス	RRSV	トビイロウンカ	イネ
ゼブラチップ	ZC	Bactericera cockerelli (キジラミの1種)	パレイシヨ
チリ葉巻ウイルス	CLCV	タバココナジラミ	トウガラシ

サイアジピル®は上記の作物・病害においてウイルス媒介抑制効果が確認されています。 出典: DuPont, Global Development Database

ベリマーク®SCのウイルス媒介抑制効果(トマト／黄化葉巻ウイルス)



2014年 福岡県農林業総合試験場

【試験概要】

品種名: ハウス桃太郎
定植日: 2014年10月21日
区 制: 1区16株・2反復



吸汁性害虫への効果

様々な類の吸汁性害虫に対して、
種間差なく実用的な効果を示します。

コナジラミ類



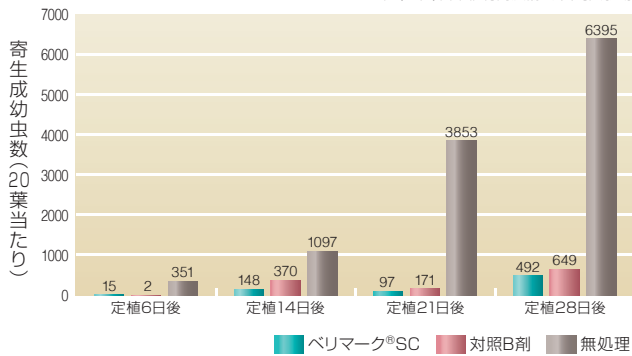
タバココナジラミ



オンシツコナジラミ

トマト/タバココナジラミ バイオタイプQ

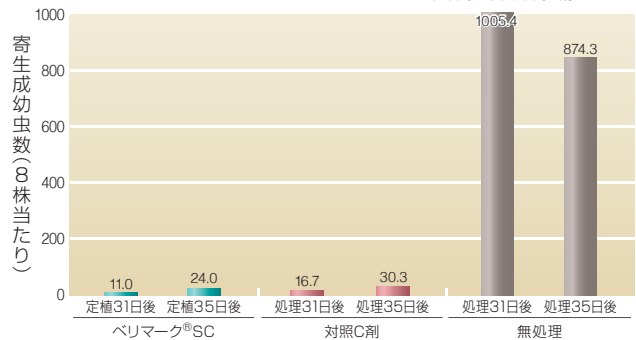
2013年 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場



【試験概要】◎品種:桃太郎ファイト ◎区制:1区 14株 3反復 ◎発生程度:少→多発生 ◎播種:4月19日 ◎定植:5月31日 ◎処理日:5月28日(定植3日前) ◎処理方法:ベリマーク[®]SCは800倍希釈液をポットあたり50ml株元に灌注。対照B剤は株当たり2gを株元に散布。◎処理時の作物ステージ:育苗期(草丈30cm程度、本葉7~8枚) ◎調査日:定植6日後(6月6日)、14日後(6月14日)、21日後(6月21日)、28日後(6月28日) ◎調査方法:区内中央付近10株について株当たり2複製(合計20複製)に寄生する4齢幼虫および成虫を調査。

トマト/オンシツコナジラミ

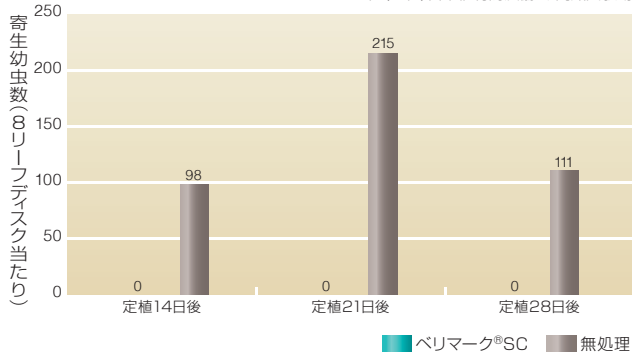
2013年 神奈川県農業技術センター



【試験概要】◎品種:桃太郎はるか ◎区制:1区 10株 3連制 ◎発生程度:多発生(オンシツコナジラミのみ放虫) ◎播種:5月21日 ◎鉢上げ:6月5日(9cmポット) ◎定植:6月28日 ◎処理日:6月25日 ◎処理方法:対照C剤を2g/株を株元に処理。またベリマーク[®]SC 800倍は50ml/ポットを灌注。◎処理時の作物ステージ:育苗期後半 ◎調査日:定植31日後(7月29日)、35日後(8月2日) ◎調査方法:各区8株全葉について寄生老齢幼虫数と成虫数を調査。(3区平均)

なす/タバココナジラミ バイオタイプQ

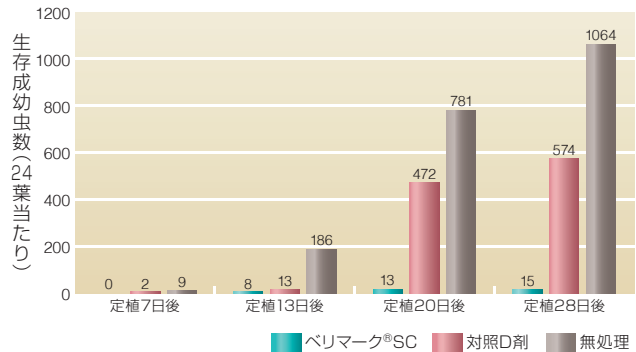
2013年 (一社)日本植物防疫協会 高知試験場



【試験概要】◎品種:春鈴 ビニルハウス栽培 ◎区制:1区 6株 3反復 ◎発生程度:少発生 ◎播種:3月12日 ◎定植:5月15日 ◎処理日:5月10日(定植5日前) ◎処理方法:ベリマーク[®]SC:50ml/ポット ◎処理方法:ベリマーク[®]SC:ポット植なす苗(直径9cmポリポット)に灌注処理。◎処理時の作物ステージ:草丈約12cm、本葉6枚。◎調査日:定植14日後(5月29日)、21日後(6月5日)および28日後(6月12日) ◎調査方法:各区分境株を除いた4株の下部2葉からリーフディスク(直径30mm)各1枚採取し、実体顕微鏡下寄生虫数を発育ステージ別に調査。(3区分合計)

きゅうり/タバココナジラミ バイオタイプQ

2013年 山口県農林総合技術センター



【試験概要】◎品種:フリーダム1号 ◎品種:フリーダム1号 ◎区制:1区 10株 3連制 ◎発生程度:中発生(放虫) ◎播種:9月5日 ◎定植:9月27日 ◎処理日:9月24日(本葉2葉期、定植3日前) ◎処理方法:所定量を株元散布または灌注。◎調査日:定植7日後(10月4日)、13日後(10月10日)、20日後(10月17日)、28日後(10月25日)。◎調査方法:各区8株の3葉をマークし計24葉のコナジラミ成虫、幼虫の見取り調査を行った。

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

吸汁性害虫への効果

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

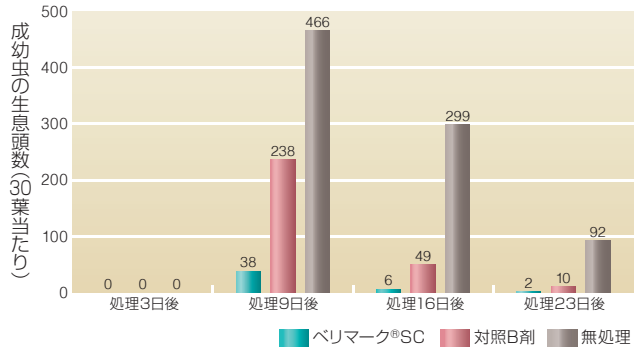
登録内容・基本情報

アザミウマ類



きゅうり / ミナミキイロアザミウマ

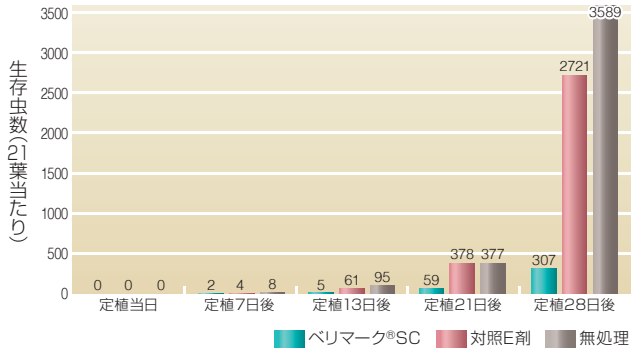
2013年 福岡県農業総合試験場



【試験概要】◎品種:エクセレント節成353 ◎区制:1区 15株 2反復 ◎発生程度:少→多発生(放虫) ◎播種:6月4日 ◎定植:6月21日 ◎処理方法:ベリマーク®SCは、定植3日前前に所定量を処理し、対照B剤は定植時に処理した。◎処理時の作物ステージ:2~3葉期 ◎調査日:処理 3日後(6月21日)、9日後(6月27日)、16日後(7月4日)、23日後(7月11日) ◎調査方法:各区内の全株について、1株当たり中位葉から2葉抽出し、合計30葉の葉裏に生息するミナミキイロアザミウマの幼虫と成虫を調査。

なす / ミナミキイロアザミウマ

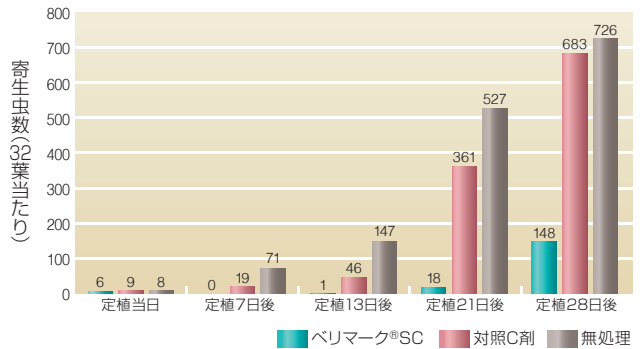
2011年 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場



【試験概要】◎品種:筑陽 ◎区制:1区 9株 3反復 ◎発生程度:中→多発生 ◎播種:3月22日 ◎定植:5月19日 ◎処理日:5月18日(定植前日) ◎処理方法:ベリマーク®SCは、直径12cmポリポット苗の株元へ所定量を処理。対照E剤は5月19日(定植当日)に定植直後の株元へ処理。◎処理時の作物ステージ:開花期 ◎調査日:定植当日(5月19日)、7日後(5月26日)、13日後(6月1日)、21日後(6月9日)および28日後(6月16日)。◎調査方法:区中央部7株の株当たり中位葉3枚を選び、生存虫数を成虫、幼虫別に調査。(3区合計)

ピーマン / チャノキイロアザミウマ

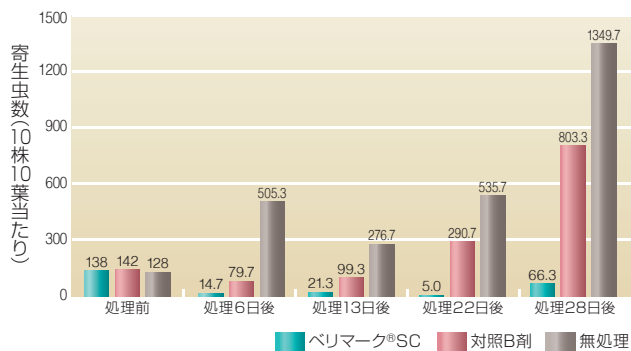
2012年 宮崎県総合農業試験場



【試験概要】◎品種:京鈴 ◎区制:1区 8株 2反復 ◎発生程度:少→甚発生 ◎定植:8月9日 ◎処理方法:ベリマーク®SCは定植前に25ml/育苗ポット灌注処理を行い、対照C剤は定植時に所定量を処理。◎調査日:定植7日後(8月16日)、散布13日後(8月22日)、21日後(8月30日)、28日後(9月6日)。◎調査方法:各区8株について上位展開葉4葉の葉裏に寄生する成幼虫数を調査。(2区合計)

ねぎ / ネギアザミウマ

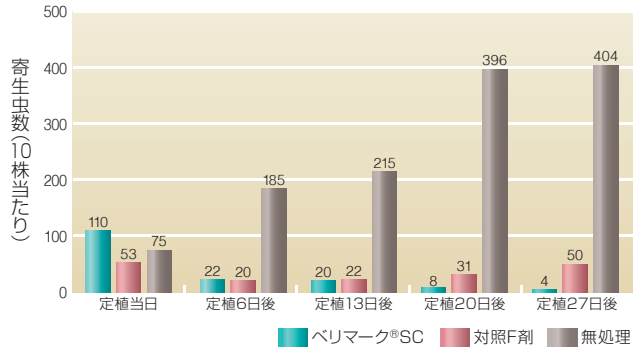
2011年 神奈川県農業技術センター



【試験概要】◎品種:西田 ◎区制:1区 70株 3連制 ◎発生程度:多発生 ◎播種:3月24日 ◎定植:5月18日 ◎処理日:6月1日 ◎処理方法:本圃に所定量を灌注処理。◎処理時の作物ステージ:生育期 ◎調査日:処理6日後(6月7日)、13日後(6月14日)、22日後(6月23日)、28日後(6月29日) ◎調査方法:各区20株の各株中心2葉について幼虫数および成虫数を調査。(3区平均)

いちご / モトジロアザミウマ・ミカンキイロアザミウマ混発

2016年 日本曹達(株) 榛原フィールドリサーチセンター

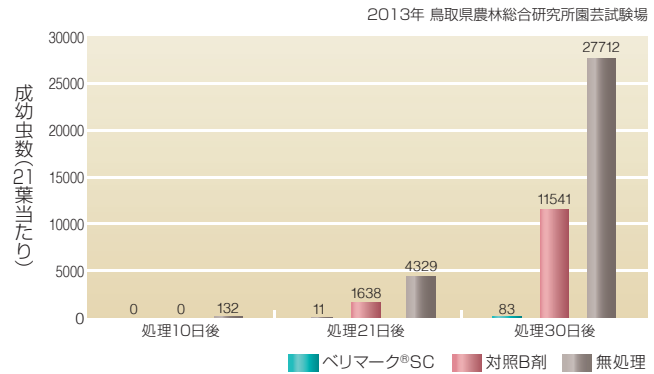


【試験概要】◎品種:とちおとめ ◎区制:1区 12株 3連制 ◎発生程度:多発生 ◎定植:12月1日 ◎処理日:11月26日(定植5日前) ◎処理方法:ベリマーク®SC 1000倍希釈液、対照F剤 500倍希釈液をそれぞれ定植5日前に株当たり50ml小型ジョウロを用いて灌注処理した。◎処理時の作物ステージ:育苗期(9cmポリポット) ◎調査日:定植当日(12月1日)、定植6日後(12月7日)、13日後(12月14日)、20日後(12月21日)、27日後(12月28日) ◎調査方法:各区両端2株を除く10株の全葉に寄生する成虫および幼虫(混発したミカンキイロアザミウマ含む)と蛹数を調査。

アブラムシ類

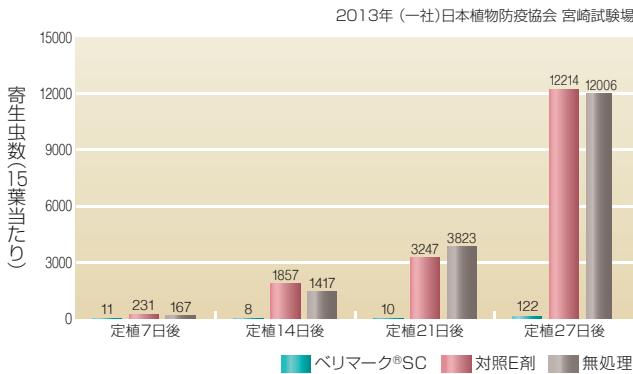


すいか / ワタアブラムシ



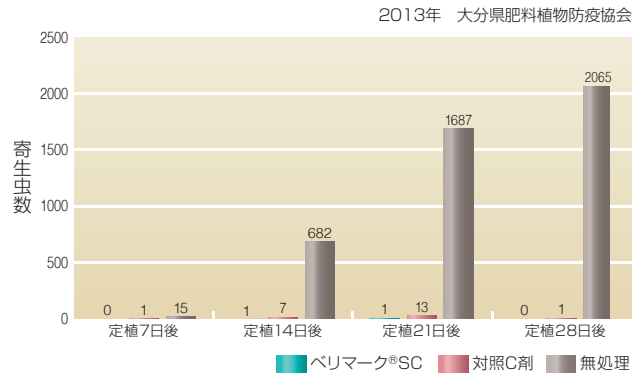
【試験概要】◎品種：筑波の香 ◎区制：7株/区 3区制 ◎発生程度：甚発生 ◎定植：4月25日 処理日：4月22日
◎処理方法：ベリマーク®SCは定植3日前に薬液を希釈して規定量をポット(9cm径)に灌注。対照E剤は規定量を計りとり、定植時に手で植穴土壌混和。◎処理時の作物ステージ：定植前 ◎調査日：処理10日後(5月2日)、21日後(5月13日)、30日後(5月22日)。◎調査方法：各区7株について、1株当たり3葉選び、アブラムシ成幼虫数を調査。

メロン / ワタアブラムシ



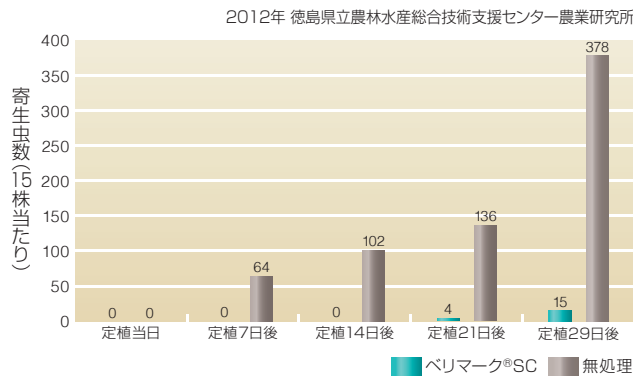
【試験概要】◎品種：プリンス ◎区制：1区 7株 3反復 ◎発生程度：少→甚発生 ◎播種：4月22日 ◎定植：5月17日 10.5cm径ポット使用 ◎処理日：5月13日(定植4日前) ◎処理方法：ベリマーク®SCは800倍希釈液をポットあたり50mlを灌注。対照E剤は1株当たり1gを株元に散布し、十分量の灌水を行った。◎処理時の作物ステージ：育苗期(本葉4枚) ◎調査日：定植7日後(5月24日)、14日後(5月31日)、21日後(6月7日)、27日後(6月13日) ◎調査方法：区内中央付近の5株当たり3葉(計15葉)の寄生虫数を有翅・無翅別に計数した。(3区合計)

トマト / ワタアブラムシ



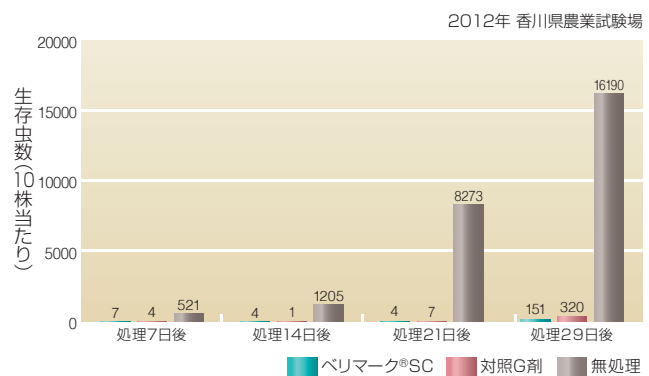
【試験概要】◎品種：瑞栄 ◎区制：1区 10株 3連制 ◎発生程度：多→中発生 ◎播種：4月2日 ◎直径10cmのポリポットに鉢上げ：5月4日 ◎定植：5月20日 ◎処理日：5月16日(定植4日前) ◎処理方法：定植4日前に800倍液をビペットにより1ポット当たり50mlを灌注し、5月20日に定植を行った。対照区は各株1.5gを定植時株元処理を行った。◎処理時の作物ステージ：定植時(本葉8枚) ◎調査日：定植7日後(5月27日)、14日後(6月3日)、21日後(6月10日)、28日後(6月17日) ◎調査方法：各区とも5月27日は完全展開葉9葉、6月1日以降は、全葉のアブラムシ類(ワタアブラムシ)の有翅・無翅の寄生虫数を調査。(3区合計)

レタス / モモアカアブラムシ



【試験概要】◎品種：極早生シスコ ◎区制：1区 約25株 3連制 ◎発生程度：無→多発生 ◎定植：3月19日 200穴セルトレイ供試 ◎処理日：3月16日(定植3日前) ◎処理量：400倍希釈液500ml ◎処理方法：セルトレイ灌注 ◎処理時の作物ステージ：2葉期 ◎調査日：定植当日(3月19日)、7日後(3月26日)、14日後(4月2日)、21日後(4月9日)、29日後(4月17日) ◎調査方法：アブラムシ類は各区任意の15株に寄生する無翅・有翅虫を調査した。また、同時に発生したナモグリ工は各区任意の15株の食害痕または産卵痕の有無を調査した。(3区合計)

レタス / タイワンヒゲナガアブラムシ



【試験概要】◎品種：しずか ◎区制：1区 30株 3連制 ◎発生程度：多発生(放虫) ◎播種：4月11日 ◎定植：5月8日 ◎処理日：5月8日 ◎処理方法：所定濃度に希釈した薬液をペットボトルとシャワーキャップを用いて、128穴セルトレイ当たり、0.5ℓを灌注処理。◎処理時の作物ステージ：定植期 ◎調査日：処理7日後(5月15日)、14日後(5月22日)、21日後(5月29日)、29日後(6月6日) ◎調査方法：区当たり10株をマークし、マークした株の全葉における生存虫数を有翅と無翅個体に分けて調査した。葉害は調査日毎に肉眼で観察調査。

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

チョウ目害虫への効果

様々な重要チョウ目害虫に種間差なく安定した優れた効果

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

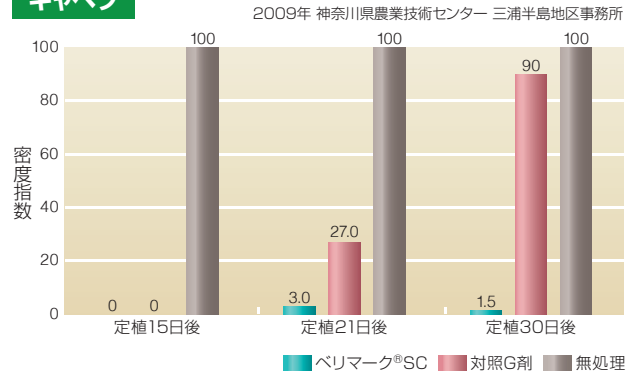
食害性害虫への効果

登録内容・基本情報



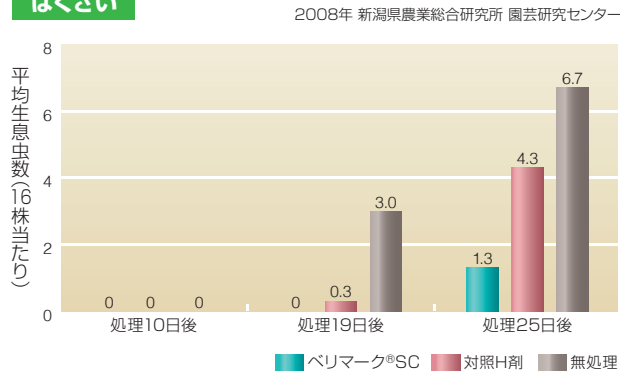
コナガ

キャベツ



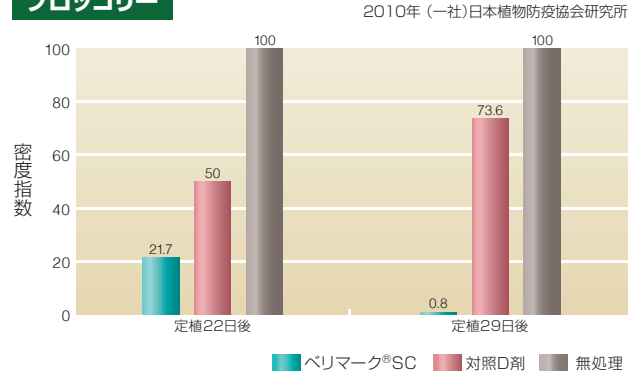
【試験概要】◎品種:涼嶺41号 ◎播種:4月10日 ◎区制:1区 8.3㎡(3.2m×2.6)48株 3連制 ◎定植:5月8日 ◎発生程度:多発生 ◎処理日:5月7日 ◎処理方法:ペリマーク®SC400倍 500mℓ/セルトレイ(定植前日)、対照H剤50倍 500mℓ/セルトレイ ◎調査方法:各区10株に寄生する幼虫数(若齢、中齢、老齢)、蛹数を調査。

はくさい



【試験概要】◎品種:耐糖六十日 ◎播種:4月18日 ◎区制:1区4.32㎡ 16株 3反復 ◎定植:5月9日 ◎発生程度:少→中発生 ◎処理日:定植前日 5月8日 ◎処理方法:ペリマーク®SC 400倍500mℓ/セルトレイ、対照H剤150倍500mℓ/セルトレイ ◎調査方法:1区16株の全葉について食害根を中心に生息する虫数(若齢、老齢)を調査。

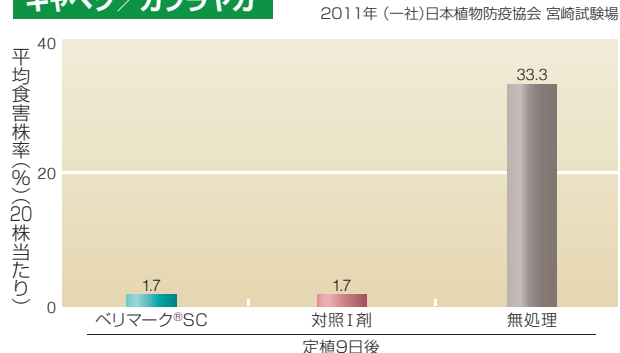
ブロッコリー



【試験概要】◎品種:ハイツ ◎播種:4月12日 ◎区制:1区4.8㎡(1.2m×4.0m)16株 3連制 ◎定植5月10日 ◎発生程度:多発生(放虫) ◎処理日:5月10日(定植当日) ◎処理方法:ペリマーク®SC 400倍/セルトレイ、対照D剤0.5g/株 ◎調査方法:各区中央付近10株の生息虫数を種別・発生ステージ別に調査。

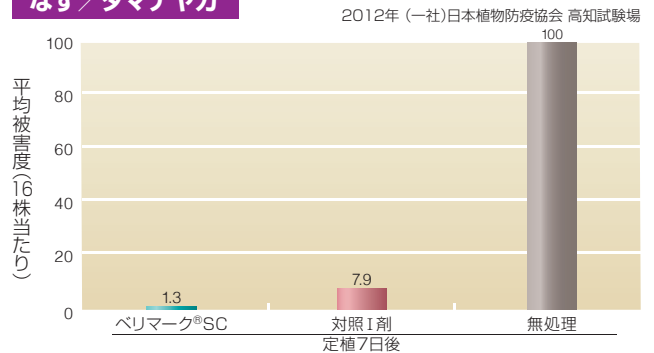
ネキリムシ類

キャベツ/カブラヤガ



【試験概要】◎品種:秋穂SP ◎播種:3月23日 ◎区制:1区 2.0㎡ 20株 3反復 ◎定植:4月22日 ◎発生程度:多発生(放虫) ◎処理日:4月22日 ◎処理方法:ペリマーク®SC 400倍500mℓ/セルトレイ、対照I剤3kg/10aを株元散布 ◎調査方法:各区の食害株数と死虫数を調査した。

なす/タマナヤガ



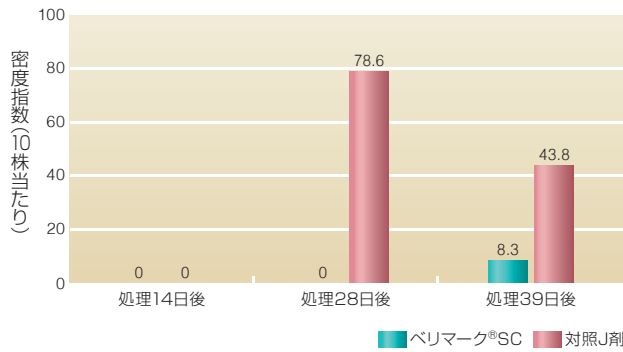
【試験概要】◎品種:千両二号 ◎播種:6月1日 ◎区制:1区 1.2㎡ 16株 3反復 ◎定植:7月26日 ◎発生程度:多発生(放虫) ◎処理日:7月26日 ◎処理方法:ペリマーク®SC400倍25mℓ/ポット、対照I剤 3kg/10a 株元処理 ◎調査方法:各区全株について、ネキリムシによる被害株数および被害程度(無:被害なし、少:僅かな被害あり、中:顕著な被害あり、多:甚しい被害あり)別に調査。

を發揮します。

ハスモンヨトウ

キャベツ

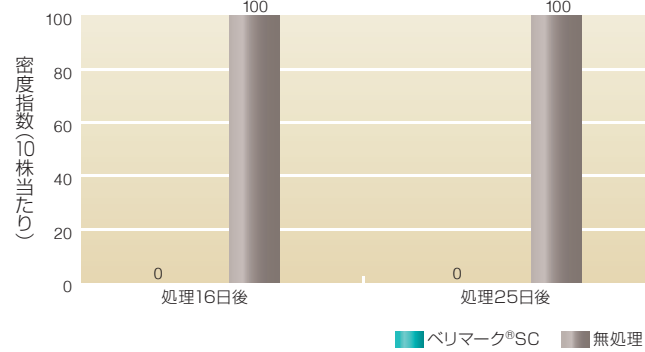
2008年 (一社)日本植物防疫協会研究所 宮崎試験場



【試験概要】◎品種:秋徳 ◎播種:3月24日 ◎区制:1区 4.1㎡ 10株 2連制 ◎定植:4月25日 ◎発生程度:少発生(放虫) ◎処理日:4月25日 ◎処理方法:ベリマーク®SC400倍500ml/セルトレイ、対照J剤0.5g/株 ◎調査方法:各区全株について生存虫数を若齢、中齢、老齢別に調査。

いちご

2012年 日本植物環境コンサルティング(株)

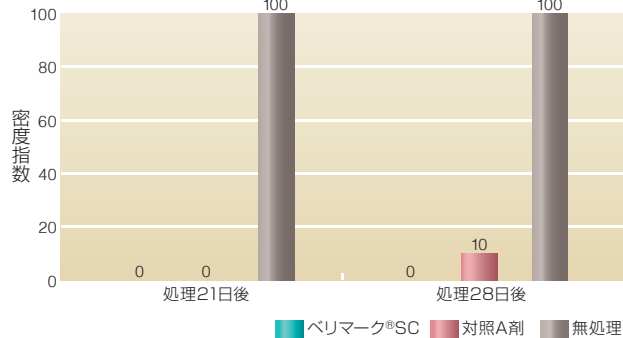


【試験概要】◎品種:紅ほっぺ ◎区制:1区 20株 3連制 2.5㎡ ◎定植:9月3日 ◎発生程度:中発生(放虫) ◎処理日:8月31日(定植3日前) ◎処理方法:ベリマーク®SC1000倍50ml/ポット ◎調査方法:各区10株全葉について、ハスモンヨトウの幼虫(若齢、中齢、老齢)の寄生虫数を調査。

ウワバ類

キャベツ/タマネギウワバ

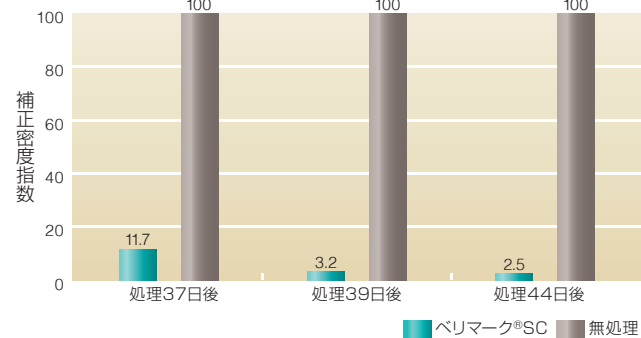
2012年 長野県野菜花き試験場



【試験概要】◎品種:輝吉 ◎区制:1区 40株 10㎡ 3連制 ◎定植:5月8日 ◎発生程度:少発生 ◎処理日:5月8日 ◎処理方法:ベリマーク®SC400倍500ml/セルトレイ、対照A剤 200倍 500ml/セルトレイ ◎調査方法:各区10株の全葉について、生息する幼虫および蛹個体数を調査。

レタス/イラクサギンウワバ

2013年 千葉大学園芸学部

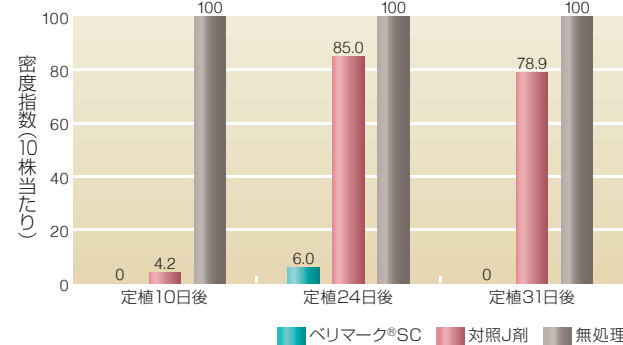


【試験概要】◎品種:シスコ ◎播種:3月25日 ◎区制:1区 約2㎡ 12株 3連制 ◎定植:4月22日 ◎発生程度:中発生(放虫) ◎処理日:4月18日 ◎処理方法:ベリマーク®SC400倍500ml/セルトレイ(定植4日前) ◎調査方法:各区に寄生していた幼虫の個体数を調査。

オオタバコガ

レタス

2009年 長崎県農林技術研究センター

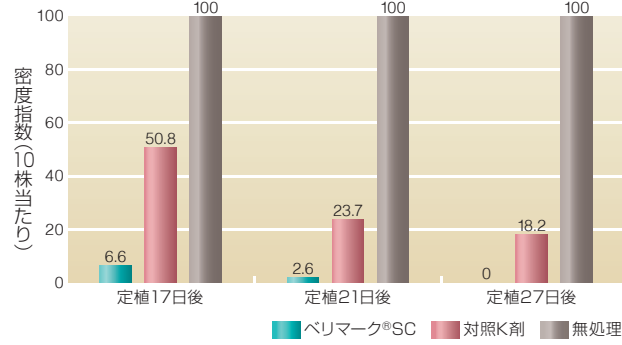


【試験概要】◎品種:極早生シスコ ◎定植:9月16日 ◎区制:1区 1.8㎡ 14株 3反復 ◎処理日:9月16日 ◎発生程度:中発生(放虫) ◎処理方法:ベリマーク®SC400倍500ml/セルトレイ、対照J剤:0.5g/株 ◎調査方法:1区全株(13~14株)の寄生虫数を齢期別に調査。

シロイチモジヨトウ

ねぎ

2014年 (一社)日本植物防疫協会 茨城研究所



【試験概要】◎品種:浅黄系九条葱 ◎播種:8月28日 ◎区制:1区 6.5㎡ 72株 3連制 ◎定植:10月3日 ◎発生程度:少発生(放虫) ◎処理日:10月3日 ◎理方法:ベリマーク®SC 400倍500ml/トレイ、対照K剤 50倍500ml/トレイ ◎調査方法:各調査日に予め定めた1条から中央付近の10株を刈り取り、株を分解しながら芯葉内部および外部に生息する虫数を发育ステージ別に調査。

チョウ目害虫への効果

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

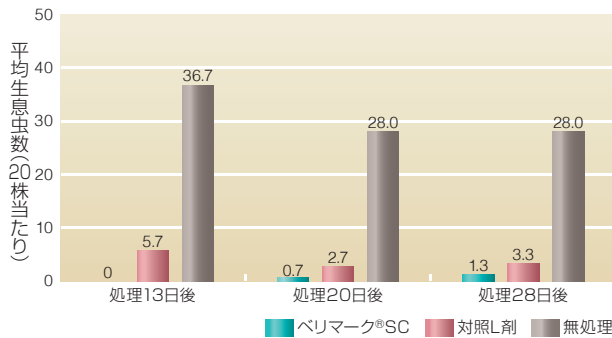
食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

ハイマダラノメイガ

はくさい

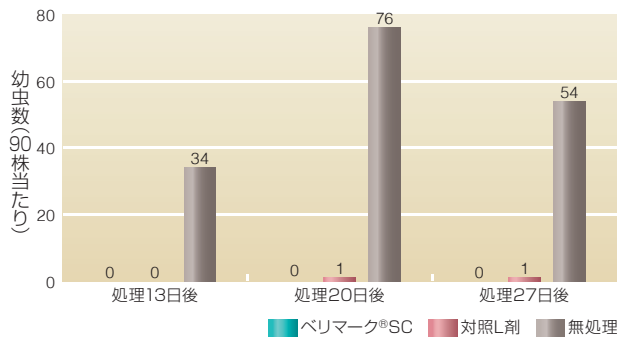
2012年 兵庫県農林水産技術総合センター



【試験概要】◎品種:耐病六十日 ◎播種:8月9日 ◎区制:1区 1.2㎡ 16株 3反復 ◎定植:9月7日◎発生程度:多発生 ◎処理日:9月6日 ◎処理方法:ペリマーク®SC400倍500ml/セルトレイ、対照L剤 100倍500ml/セルトレイ ◎調査方法:各区中央の20株に生息するハイマダラノメイガの幼虫数を若齢、中齢、老齢別に調査。

キャベツ

2012年 兵庫県立農林水産技術センター 農業技術センター

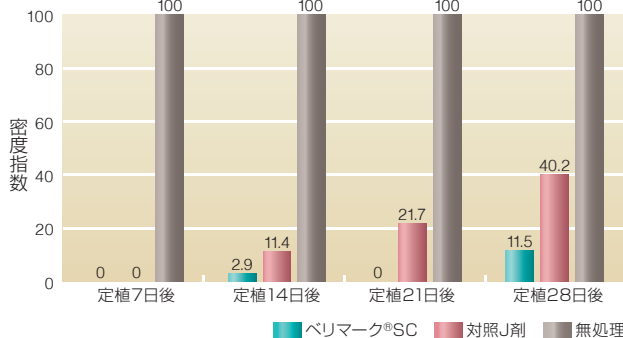


【試験概要】◎品種:彩音 ◎播種:8月9日 ◎区制:1区4㎡ 30株 3連制 ◎定植:9月7日 ◎発生程度:多発生 ◎処理日:9/6(定植前日) ◎処理方法:ペリマーク®SC 400倍 500ml/セルトレイ、対照L剤 100倍 500ml/セルトレイ ◎処理時の作物ステージ:定植苗(本葉4枚程度) ◎調査日:9月19日(定植13日後)、9月26日(定植20日後)、10月3日(定植27日後) ◎調査方法:各区全株(30株)に生息する幼虫数を若齢、中齢、老齢別に調査した。

アオムシ

キャベツ

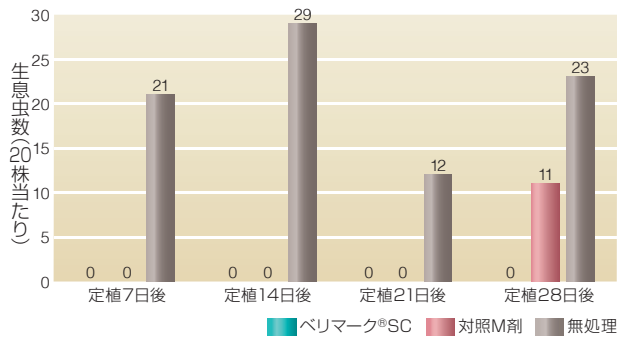
2008年 (社)愛知県植物防疫協会



【試験概要】◎品種:金系201 ◎播種:4月11日 ◎区制:1区 5.4㎡ 48株/区 3連制 ◎定植:5月14日 ◎発生程度:中発生 ◎処理日:5月14日 ◎処理方法:ペリマーク®SC 400倍500ml/セルトレイ、対照J剤 0.5g/株/セルトレイ株元処理 ◎調査方法:1区30株に寄生している虫数を发育ステージ別に調査。

はくさい

2010年 静岡県農林技術研究所 伊豆農業研究センター



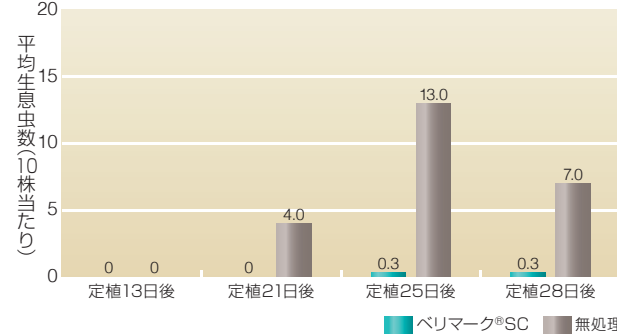
【試験概要】◎品種:無双 ◎播種:5月11日 ◎区制:1区4.1㎡ 20株 3連制 ◎定植:6月9日 ◎発生程度:少発生 ◎処理日:ペリマーク®SC 6月8日(定植前日)、対照M剤 6月9日(定植時) ◎処理方法:ペリマーク®SC400倍500ml/セルトレイ、対照M剤2g/株 ◎処理時の作物ステージ:展開葉4~5葉 ◎調査日:6月16日(定植7日後)、6月23日(定植14日後)、6月30日(定植21日後)、7月7日(定植28日後) ◎被害:認められなかった。



カブラハバチ(ハチ目)

はくさい

2013年 (一社)日本植物防疫協会 茨城研究所

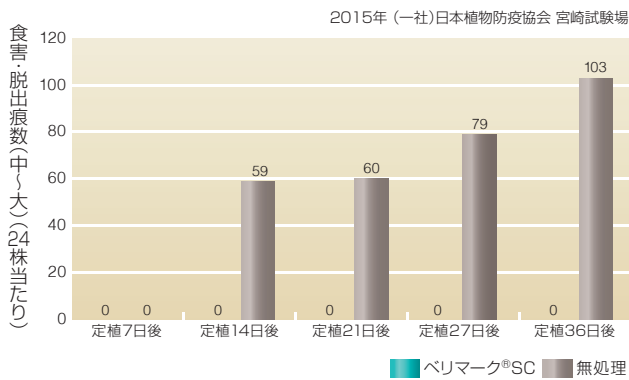


【試験概要】◎品種:耐病六十日 ◎播種:6月3日 ◎区制:1区 4.8㎡ 20株 3連制 ◎定植:6月27日 ◎発生程度:少発生(放虫) ◎処理日:6月22日(定植5日前) ◎処理方法:ペリマーク®SC400倍500ml/セルトレイ(定植5日前) ◎調査方法:各区中央付近10株に生息する虫数を種別、发育ステージ別に調査。

ハモグリバエ類

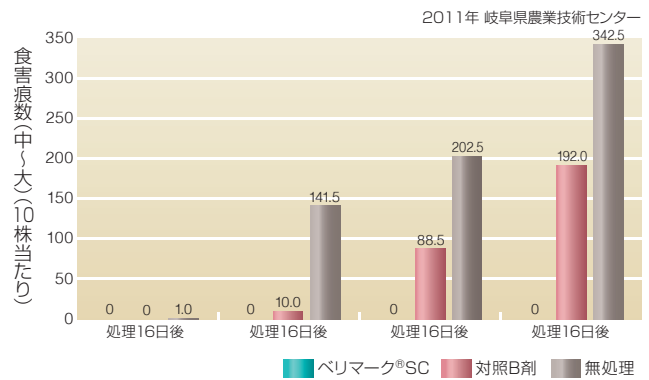


なす／トマトハモグリバエ



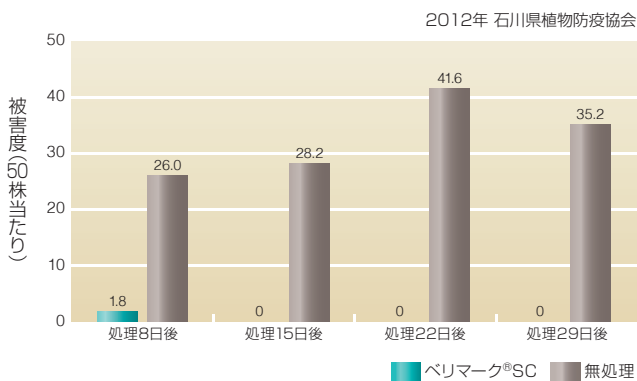
【試験概要】◎品種:筑陽 ◎区制:1区 8株 3反復 ◎発生程度:少発生 ◎播種:1月13日 ◎定植:3月25日 育苗は12cm径ポットを使用 ◎栽植距離:畝幅 120cm 株間40cm ◎処理日:3月20日(定植5日前) ◎処理方法:ベリマーク®SC400倍希釈液をポット当たり25cc株元に灌注。◎処理時の作物ステージ:育苗期(草丈30cm程度) ◎調査日:定植7日後(4月1日)、14日後(4月8日)、21日後(4月15日)、27日後(4月21日)、36日後(4月30日) ◎調査方法:区内8株について、株全体のメイン数を程度別(小メイン:せん孔が3cm以下、中メイン:せん孔が3cm以上、大メイン:脱出痕のあるせん孔)に調査。被害は随時肉眼で観察。

トマト／トマトハモグリバエ



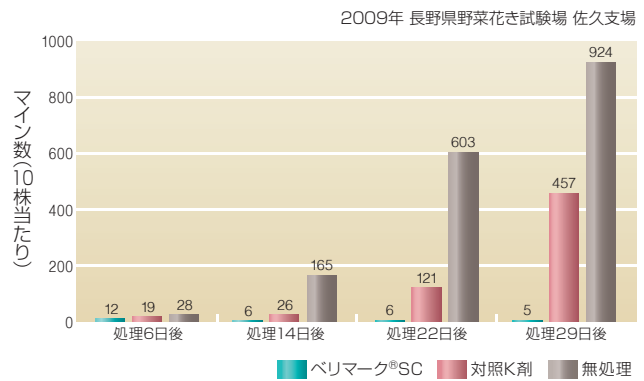
【試験概要】◎品種:桃太郎J ◎区制:1区 10株 5.4㎡(1.8×3.0m) 2連制 ◎発生程度:多発生(放虫) ◎定植:9月20日 施肥は慣行栽培に準じた ◎処理日:9月20日 ◎処理方法:定植当日に、規定倍率に希釈した薬液を1ポットずつ所定量灌注。対照B剤は、9月17日に株元処理。◎処理時の作物ステージ:本葉6枚程度展開 ◎調査月日:処理17日後(9月27日)、14日後(10月4日)、21日後(10月10日)、28日後(10月18日) ◎調査方法:各区10株の全展開葉における食害痕(メイン)数をサイズごとに小(2cm未満)、中(2cm以上)、大(幼虫脱出)に区別し、調査。(2区平均)

ねぎ／ネギハモグリバエ



【試験概要】◎品種:ホワイトスター ◎区制:1区 6㎡(1.2×5m) 3連制 ◎発生程度:多発生 ◎播種:4月21日 ◎定植:6月13日 ◎処理日:7月8日 ◎処理方法:2000倍を㎡当たり0.5ℓ、ジョウロで株元灌注。◎処理時の作物ステージ:定植後25日(草丈30cm) ◎調査日:処理8日後(7月16日)、15日後(7月23日)、22日後(7月30日)、29日後(8月6日)の4回調査。◎調査方法:各区50株の上位1葉を被害程度別に調査し、被害度を求めた。

レタス／ナモグリバエ



【試験概要】◎品種:Vレタス ◎区制:1区 60株 3連制 ◎発生程度:中発生 ◎播種:4月21日 ◎定植:5月21日 200穴セルトレイ ◎処理日:5月21日 ◎処理方法:所定量の供試薬剤(展着剤無加用)をセル苗灌注処理。◎処理時の作物ステージ:定植時 ◎調査月日:6日後(5月27日)、14日後(6月4日)、22日後(6月12日)、29日後(6月19日) ◎調査方法:処理6日後から29日後までは、各区中央部の10株について全葉のメイン数を調査。

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

登録内容

適用害虫と使用方法

2020年6月24日現在

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

作物名	適用害虫名	使用量		使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリブロールを含む農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
きゅうり	アブラムシ類	400株当り 25ml	400株当り2~20ℓ (1株当り5~50ml)	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、 定植後の散布は3回以内)
	アザミウマ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類						
トマト ミニトマト	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類						
ピーマン	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類		400株当り10~20ℓ (1株当り25~50ml)				
なす	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 ネキリムシ類						
メロン、すいか	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類						
ししとう	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類	400株当り10ℓ (1株当り25ml)					

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリブロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ アブラムシ類 アザミウマ類 ネキリムシ類 ウワバ類	400倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り0.5ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、 定植後の散布は3回以内)
はくさい	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ カブラハバチ アブラムシ類						
ブロッコリー	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ アブラムシ類 アザミウマ類						
レタス 非結球レタス	オオタバコガ ハスモンヨトウ ヒメフタテンヨコバイ ハモグリバエ類 アブラムシ類 ウワバ類						
カリフラワー	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ						
ねぎ	タマネギバエ タネバエ ネキリムシ類						
ほうれんそう	ハスモンヨトウ シロオビノメイガ	2000倍	0.5ℓ/m ²	収穫7日前 まで	株元灌注	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、 定植後の処理は3回以内 (但し、株元灌注は1回以内))	
非結球あぶらな科葉菜類 (こまつなを除く)	アオムシ、コナガ アブラムシ類	4000倍	0.2ℓ/m ²				1回
いちご	ハスモンヨトウ アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類	1000倍	50ml/株	育苗期後半 ~定植当日		灌注	4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)

⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 薬液調製後はできるだけ速やかに使用してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

⚠ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないように注意してください。
- 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮ふに付着しないよう注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。処理器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼な所に保管してください。

🔗 灌漑処理での混用事例

農薬名	はくさい	ブロッコリー	ねぎ	いちご
オラクル顆粒水和剤	●	●		●
ダイアジノンSLゾル				●
トップジンM水和剤			●	
フロンサイドSC				●
ベンレート水和剤			●	●
モメントフロアブル				●
ランマンフロアブル				●
リドミルゴールドMZ				●

●:混用して問題なかった

🔗 近接処理事例

※近接処理の場合、ベリマーク®SCは定植7日前～前日に灌漑処理。対照剤は定植当日処理。

農薬名	キャベツ	はくさい	ブロッコリー	レタス	トマト	きゅうり	なす
オラクル粉剤	●	●	●				
オリゼメート粒剤	●	●	●	●		●	
ダコニール1000			●	●			
ネビジン粉剤		●	●				
ネマキック粒剤					●	●	●
ネマトリンエース粒剤					●	●	●
フォース粒剤	●	●	●	●			
ランマンフロアブル		●	●				

●:近接処理で問題なかった

本頁の混用事例および近接処理事例は、実施した試験をもとに作成しておりますが、品質、栽培条件、使用濃度、使用時期などにより、結果が異なる場合があります。したがって、「薬害がない」ということを保証するものではありません。あくまでも混用知見の一例として考えていただきますようお願いいたします。

🔗 成分・性状

委託試験番号 : XI-0701SC

有効成分 : シアントラニリプロール 18.7%

化合物の系統 : アントラニリックジアミド系

物理化学的性状 : 類白色水和性粘稠懸濁液体

有効成分の通称 : サイアジピル® (Cyazypyr®)

本剤は単剤のみならず様々な混合剤も開発しますので、商品名や一般名とは別に、どの剤型や混合剤に含まれていても確認しやすいように、上記通称を名付けました。

IRACグループ

殺虫剤分類 28

🔗 安全性

哺乳類、鳥類、魚類への影響(原体)

哺乳類、鳥類、魚類に対して高い安全性を示します。(普通物*相当)

ラット経口 > 5000mg/kg (LD50)

ラット経皮 > 5000mg/kg (LD50)

ウズラ > 5000mg/kg (LD50)

コイ > 16mg/ℓ (LC50)

*普通物とは、毒劇物に該当しないものを指している通称

適用作物に対する安全性(薬害)

上市以来、薬害事例はありません。

作物別情報

基本特性

吸汁性害虫への効果

チョウ目害虫への効果

食害性害虫への効果

登録内容・基本情報

農林水産省登録：第24090号 ベリマークSC、第23556号 デュボン ベリマークSC

2021年1月現在

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。
●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

©2021 FMC Corporation. All Right Reserved. FMC、FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。



日本曹達株式会社

〒100-8165 東京都千代田区大手町2丁目2番1号
☎(03) 3245-6178 FAX(03) 3245-6084
<https://www.nippon-soda.co.jp/nougyo/>

NO.556-2101CC